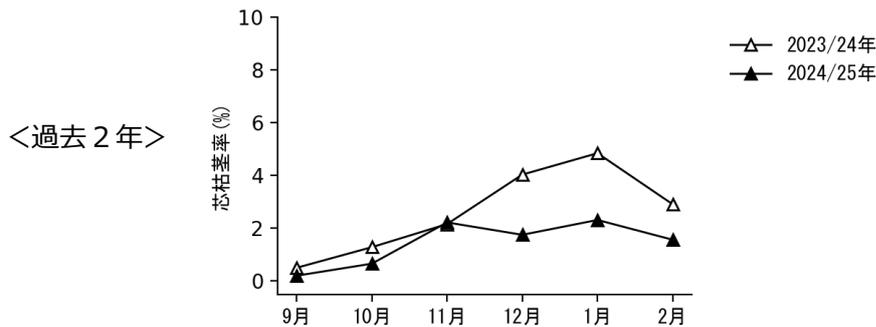
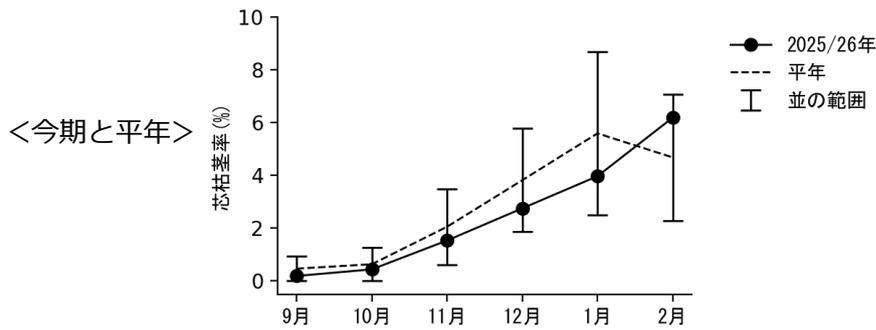


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	2 月からの増減傾向	—	
	3 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生種：イネヨトウ (61%)、カンシャシクイハマキ (39%)。
- ・発生ほ場率93.8% (平年：90.6%)

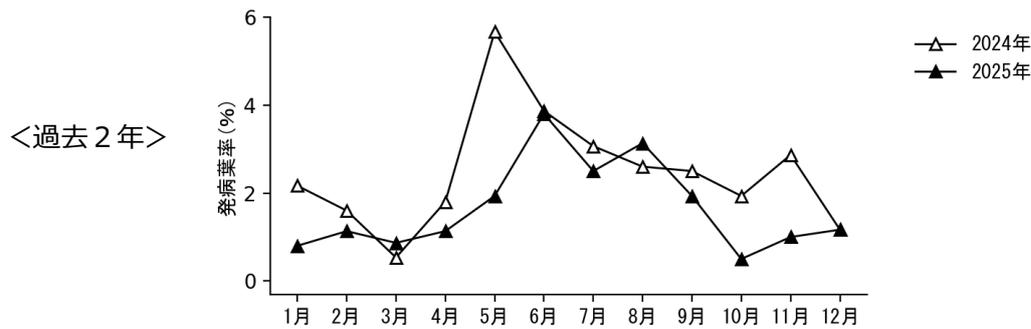
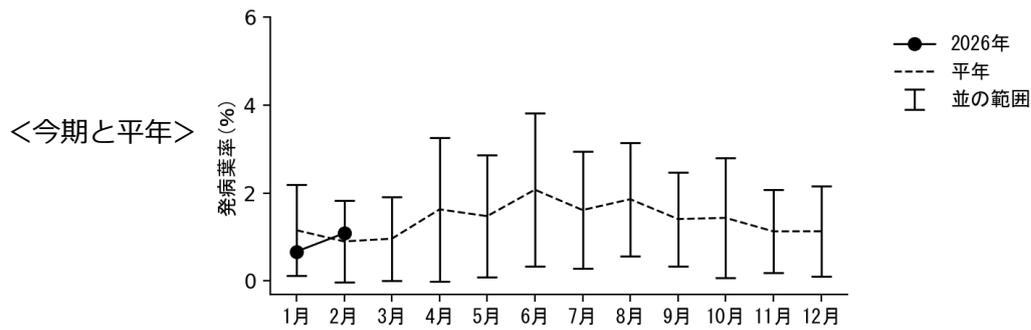
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病		
調査結果	2 月の発生量（平年比）	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

発病葉率の推移



- ・葉の発病度0.2（平年0.2）
- ・発生ほ場率100%（平年：46.9%）

防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。
- ・令和 年病害虫発生予察技術情報第 号参照

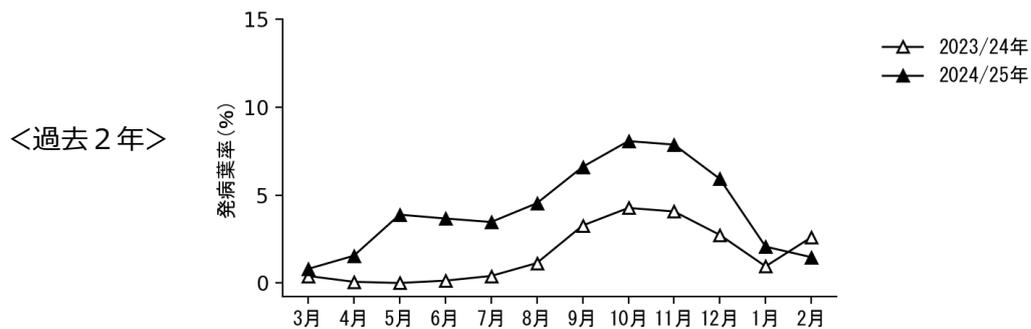
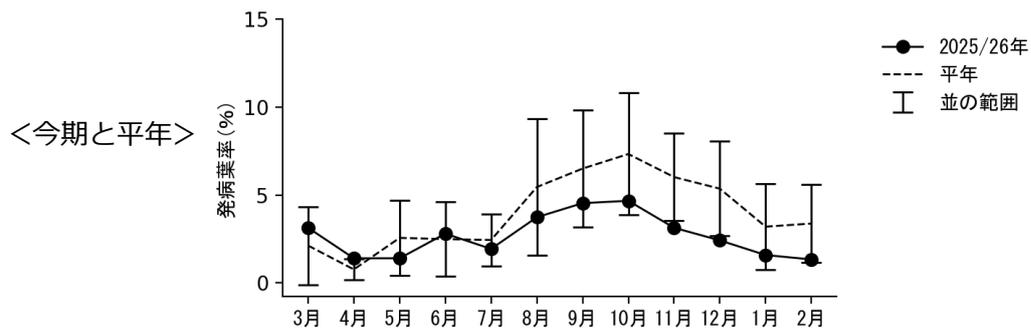
被害果→



作物	かんきつ (タンカン)		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	2 月からの増減傾向	↘		
		3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果

発病葉率の推移



- ・ 葉の発病度0.3 (平年0.8)
- ・ 発生ほ場率75.0% (平年 : 76.0%)

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。
- ・ 令和 年病害虫発生予察技術情報第 号参照

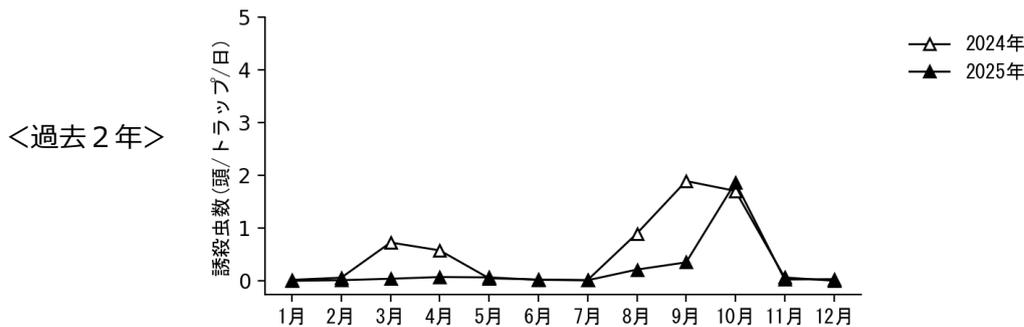
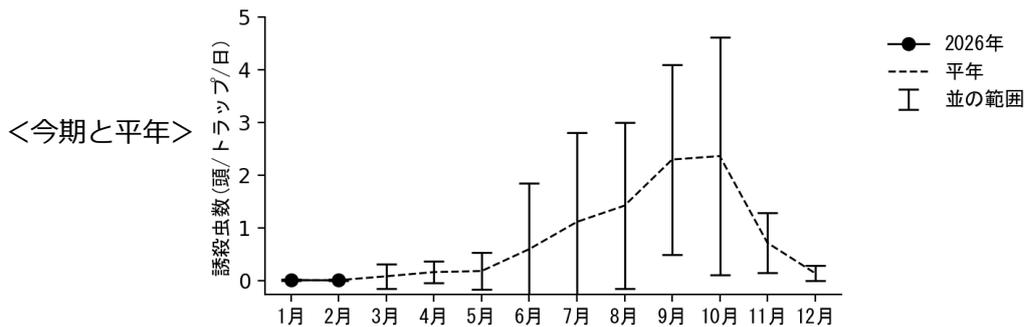
被害葉→



作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率50.0% (平年：45.0%)

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

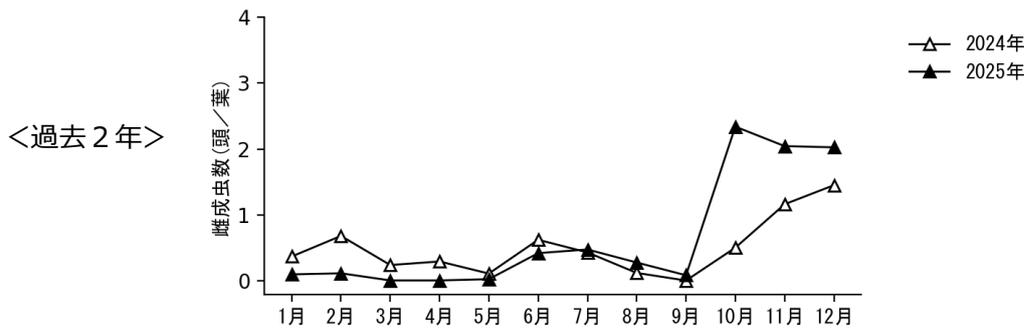
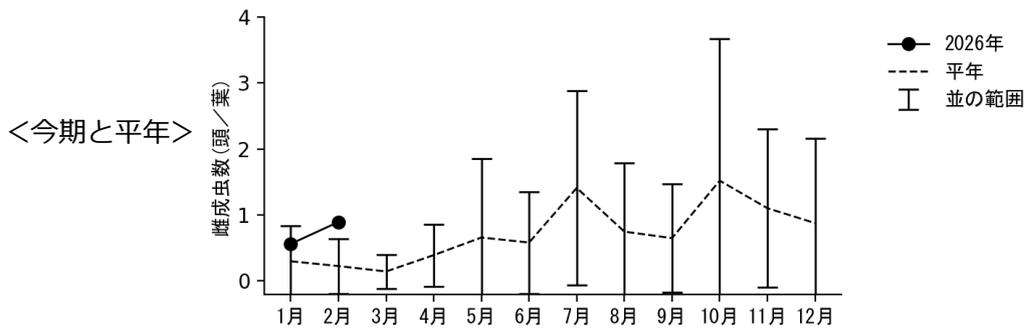


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	→	
		3 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：22.1%)
- ・一部ほ場で多発

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

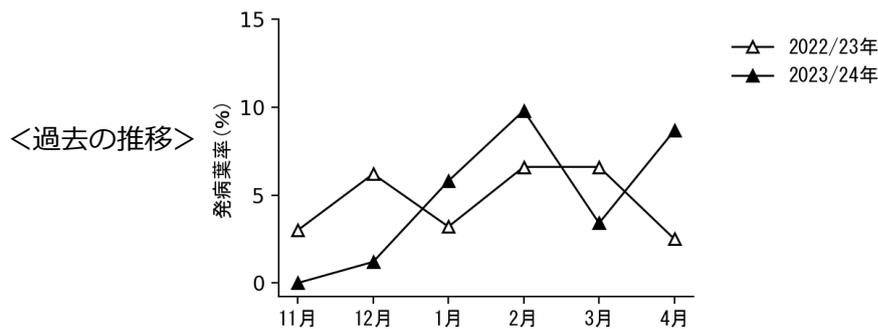
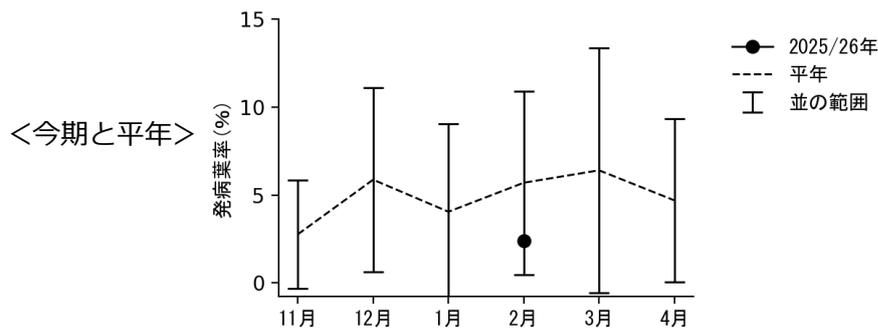


マンゴーツメハダニ

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 53.1%)

防除のポイント

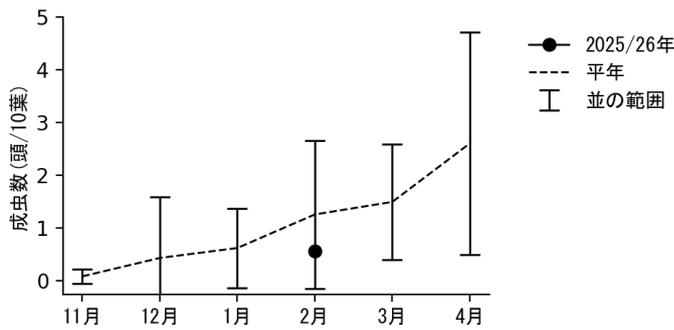
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	沖縄群島	
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ				
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並			
予報	2 月からの増減傾向	↗			
	3 月の発生量 (平年比)	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)			

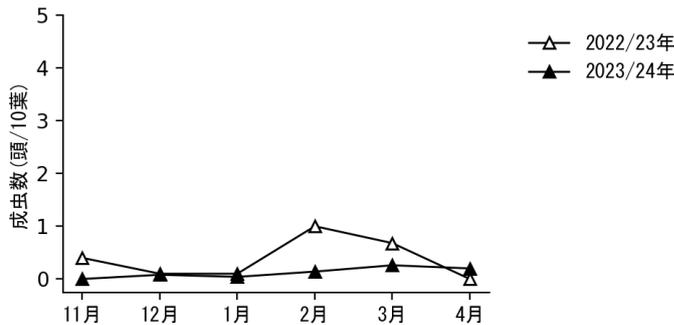
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去の推移>



・発生施設率80.0% (平年 : 51.0%)

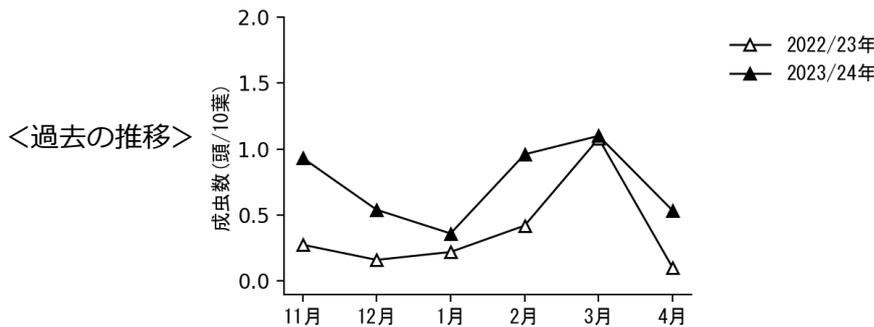
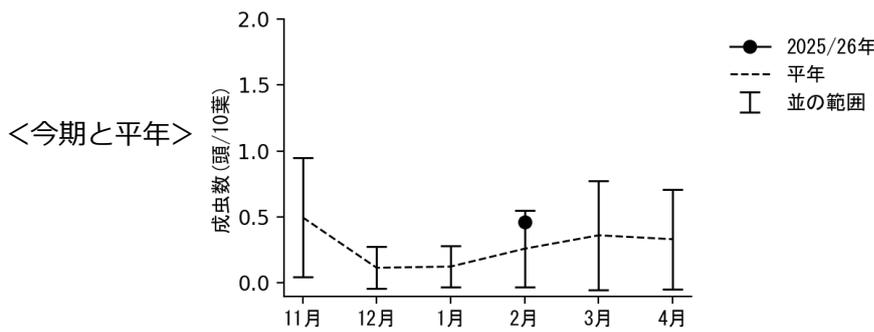
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率80.0% (平年：28.6%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

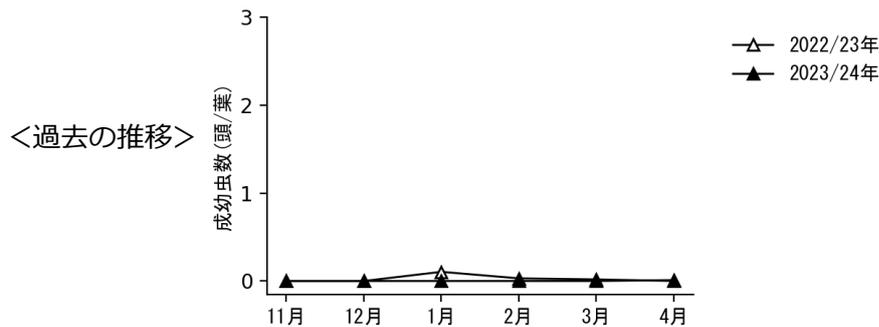
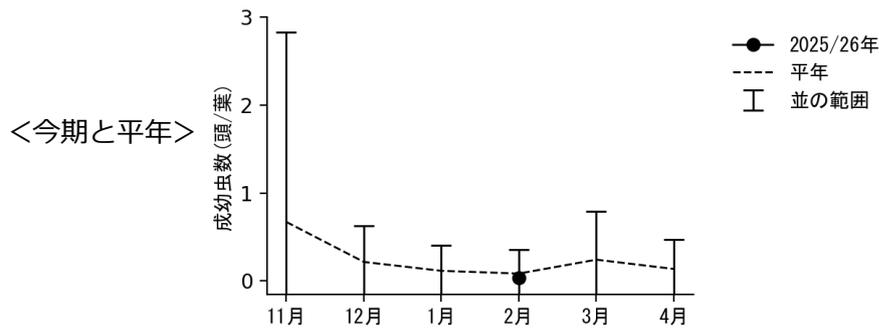


幼虫

作物	ニガウリ(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成幼虫数の推移



- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生施設率20.0% (平年：6.1%)

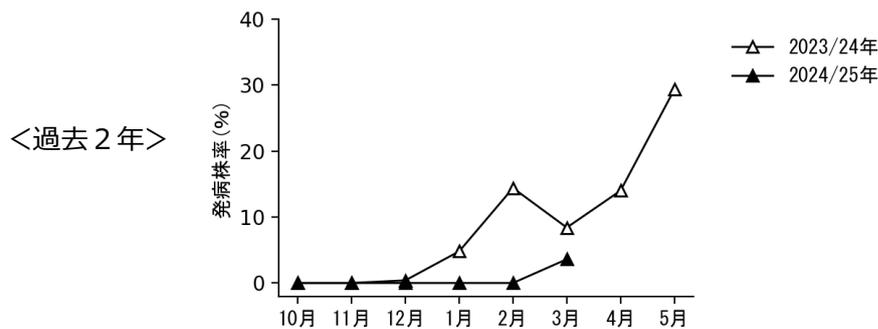
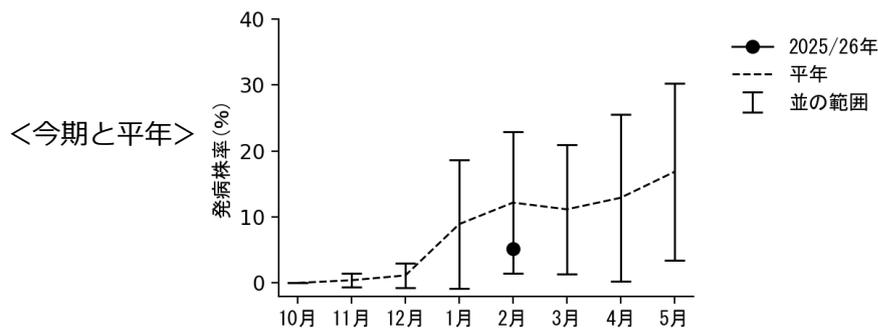
防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・早期発見に努め、薬剤が葉裏にかかるよう丁寧に散布する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 55.2%)

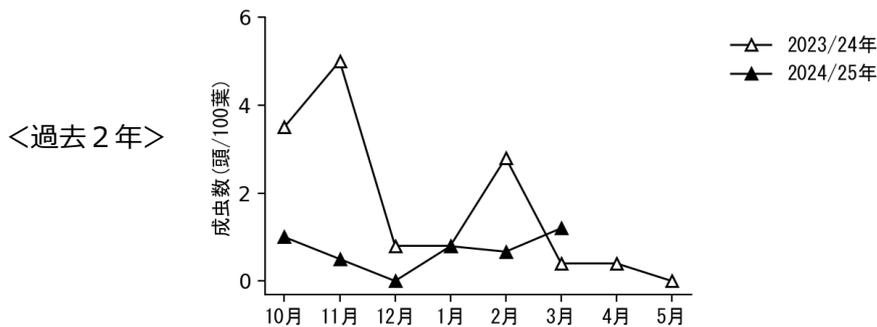
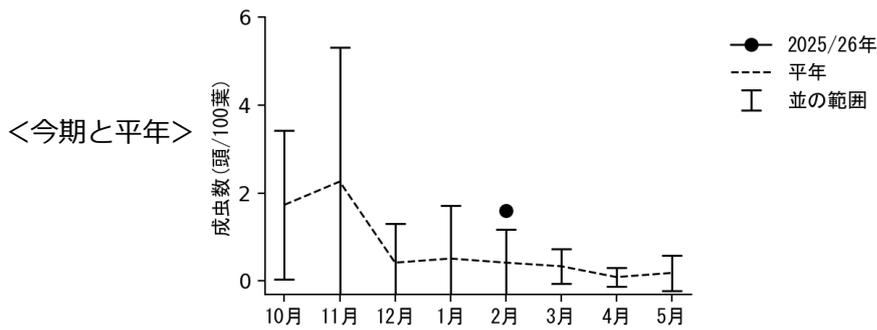
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年：11.3%)

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

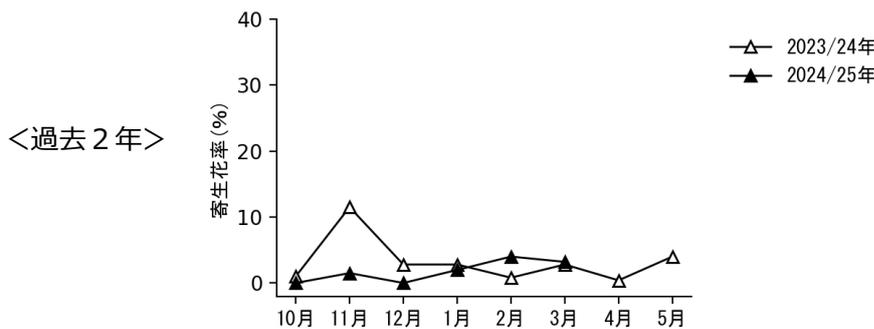
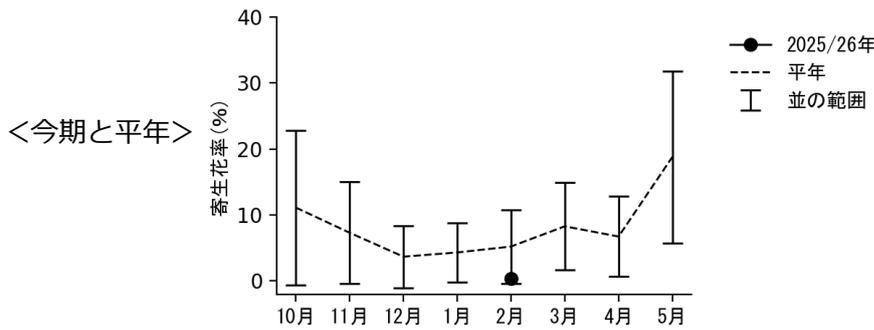


被害葉

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ヒラズハナアザミウマ		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生花率の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 44.2%)

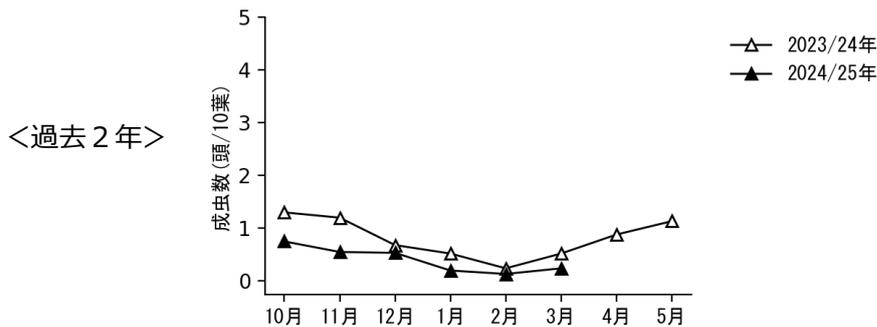
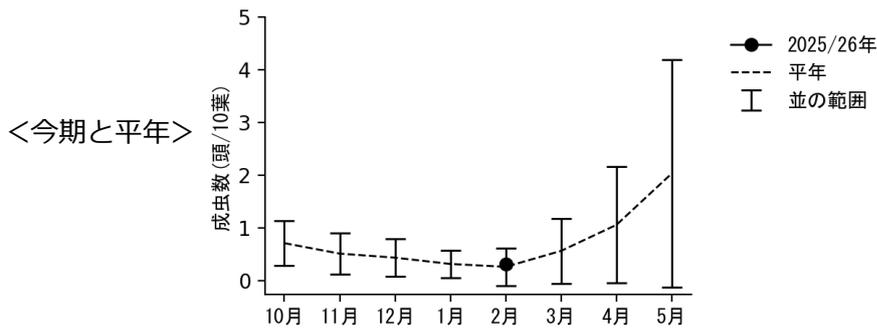
防除のポイント

- ・主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率100% (平年 : 32.1%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発するとすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

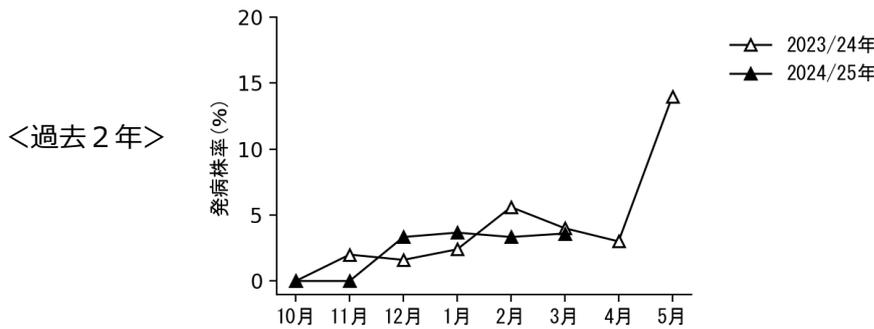
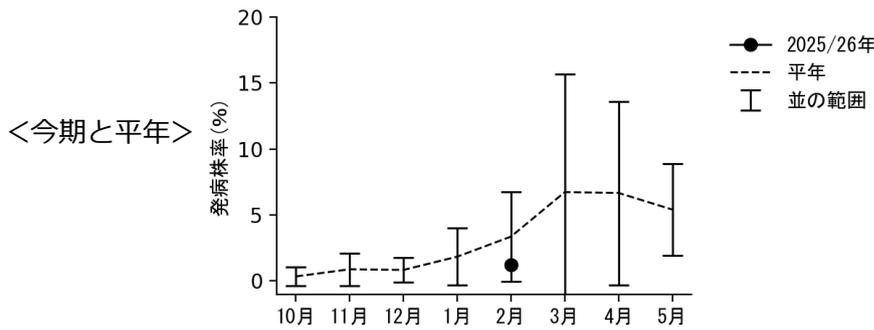


幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	2 月からの増減傾向	↗	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 42.9%)

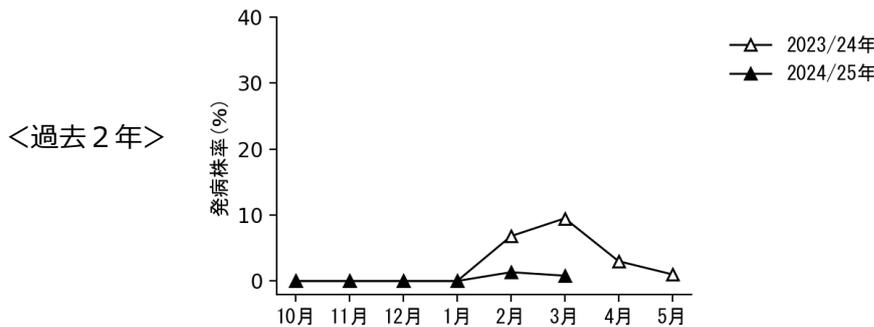
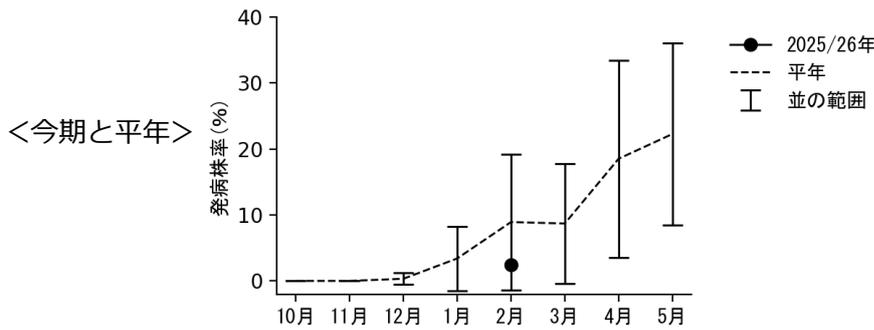
防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
- ・伝染源となるムラサキカタバミやノゲシ等の雑草除去に努める。
- ・発病株は伝染源となるため、施設外に持ち出しビニール袋に入れるなどして密閉処分する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② うどんこ病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率20.0% (平年 : 30.2%)

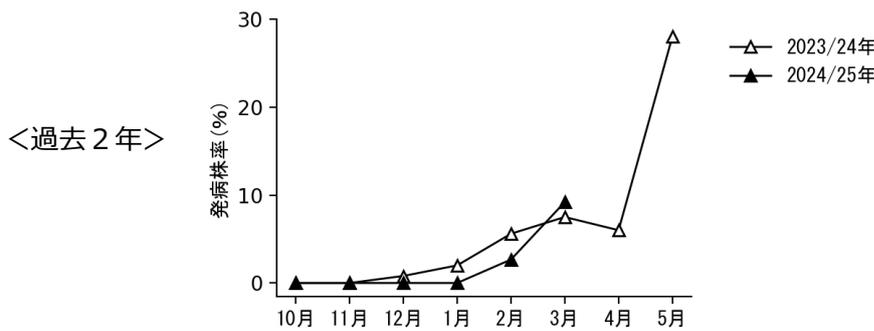
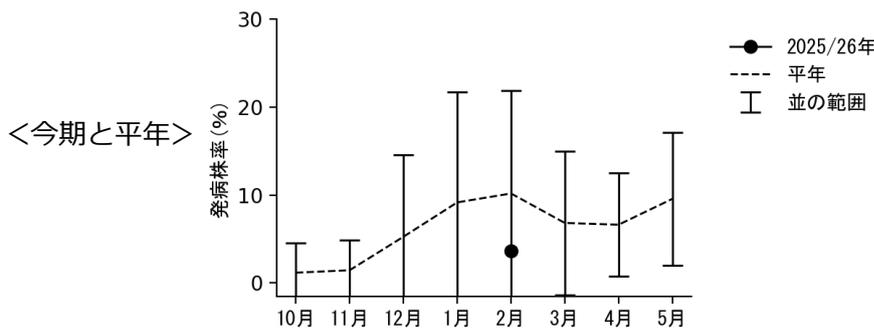
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・通風が悪いときに多発しやすいので、老葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ 葉かび・すすかび病		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↘	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

発病株率の推移



・発生施設率60.0% (平年：45.8%)

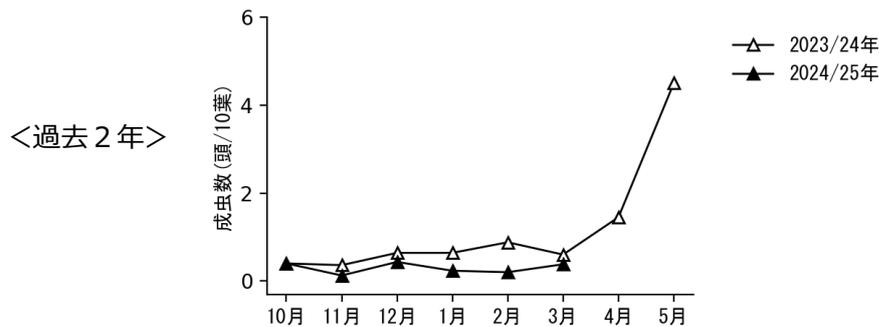
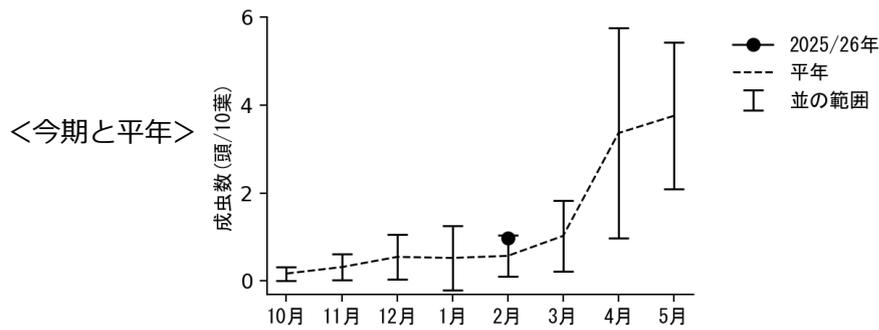
防除のポイント

- ・多湿条件下で発生しやすいので、換気を十分に行い多湿にならないようにする。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・発病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	↗	
	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率100% (平年：67.7%)

防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

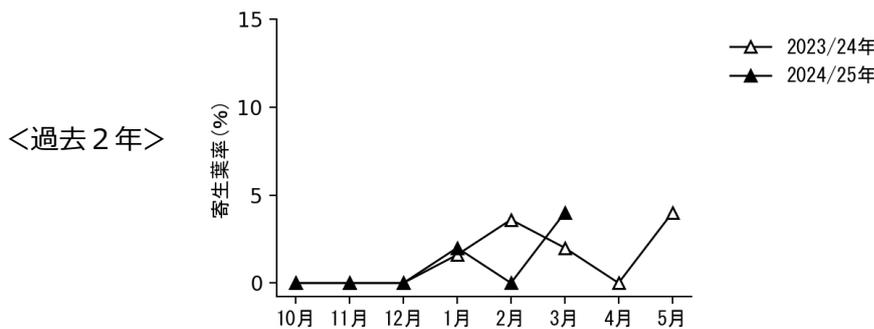
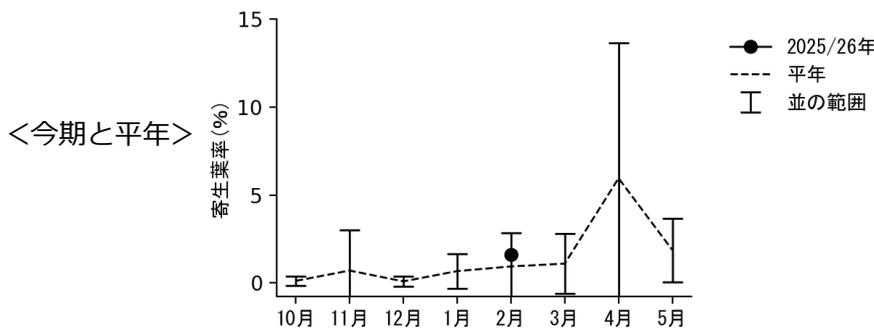


幼虫

作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハモグリバエ類		
調査結果	2 月の発生量 (平年比)	並	
予報	2 月からの増減傾向	→	
		3 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生葉率の推移



・発生施設率40.0% (平年：9.5%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判定する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。



幼虫の死骸
(農薬などで死亡すると黒色に変色)